

外贸业务日语:日语句点的打ち方 PDF转换可能丢失图片或格式, 建议阅读原文

https://www.100test.com/kao_ti2020/293/2021_2022__E5_A4_96_E8_B4_B8_E4_B8_9A_E5_c67_293604.htm 日本の文には、「句点(。)」と「点(、)」があります。句点(点)をくことを「句点(点)を打つ」と言います。句点の打ち方は、です。文のわりに打ちます。また、文のわりには、必ず句点が必要です。一方、点の使い方には、正式なはありません。点は、文をく人が、文がみやすくなるように考えて打つものです。しかし、「自由に考えて使ってください」と言われても、どのように使えばいいのか、困ってしまいます。そこで、「点を打つ所」について、ごくにまとめてみましょう。まず、短い文には、点を打つ必要がありません。例えば、「これはです。」とか「物にパンダがいます。」という短い文は、普通、点を打ちません。しかし、例1のような文には、点を打ったほうがみやすくなります。例1：それからに行ったら田中さんがいたので一に宿をしました。点をどこに打つか点を打つ所として、特に意してほしいのは、「接(接の言)の後」と「助の後」です。「接の後」には、点を打ちます。文のはじめの「しかし」「だから」「つまり」などの後です。また、「以上のように」「それを基本として」などのような、文をつなぐ言の後にも、点を打ちます。「助の後」には、点を打つ合と打たない合があります。「のに」「ので」「たら」「から」などの「接助の後」には、点を打ちます。「は」「も」「こそ」「さえ」などの後にも、点を打つことが多いです。「が

」「を」「に」「で」などの合、「その助の前に名句（ ）がある」は、打ったほうがみやすくなります。また、「に」「で」が、所やを表す合も、点を打ったほうがみやすくなることが多いと思います。それにして、助「と」「や」「の」などが、名と名をつないでいる合には、点を打ちません。そのほかに、いくつかのや形容をべるにも、点を打つことが多いです。例えば、次のように点を打ちます（ただし、にこのように打たなければいけない、というわけではありません）。例2：それから、に行ったら、田中さんがいたので、一に宿をしました。例3：学校で、6年、フランスを勉強したのに、な会さえ、全くできないということは、その勉強のやり方が、っていたということでしょう。例4：パーティでは、みんなんで、食べて、歌って、ゆかいにごしました。一般的にいて、中国の生徒がいた日本には、点が少なすぎます。これは、には、あまり点（ , ）を打つがないこと、モンゴルや朝を母とする生徒は、母が「わかちがき」をするので、やはり点を使うがないためだと思います。作文指をするには、上にまとめたことを基本にして、点をどこに打つか、自分で考えながら文をくように指してください。また、句点を打つには、必ずマス使うこと、点を打たない空白のマスを文中に作ってはいけないということもあわせて指してください。本田弘之杏林大学助教授 100Test 下载频道开通，各类考试题目直接下载。详细请访问 www.100test.com